

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 1 号 2005年5月
巡回学級文庫通信 第1号 2005年5月

ブックトークのすすめ

ブックトークとは、1つのテーマにそって、いろいろな本を紹介することをいいます。

今月から1年間、河南町立中央公民館図書室の司書が、図書室にある子どもの本の中から、

読んでほしいなと思うものを取り上げていきます。今月のテーマは「ともだち」です。

新学期は、新しい友だちとの出会いの季節です。今回は、本の中のすてきな友だちを紹介します。

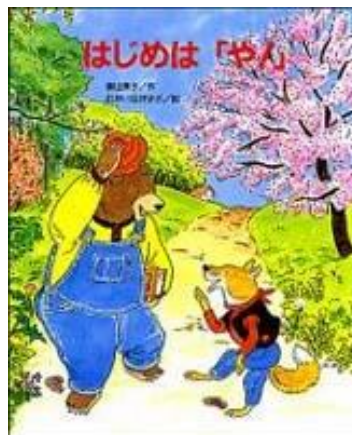
最初は「ともだちや」という絵本です。ある日、キツネは「友だち屋さん」を始めることを思いつきました。1時間100円で友だちになってあげるのです。森で一番のさびしんぼうのキツネは友だちを上手に作れるでしょうか。

次は「はじめは「や！」」という絵本です。くまさんときつねさんは全然顔見知りではありませんでした。だから公園のベンチ会ったときも、町の通りですれ違ったときも、もちろん声をかけませんでした。でも何度も出会ううちに、「や！」と挨拶をするようになり、仲良し一番のともだちになりました。ちょっと勇気を出して「や！」と试试看と、自分の世界が変わるかもしれません。

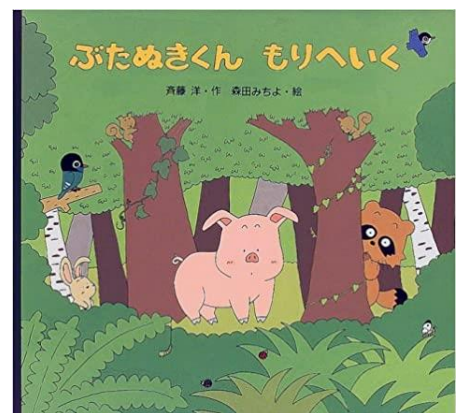
最後に、「ぶためきくんもりへいく」の絵本です。退屈な農場での生活に嫌気がさしたぶためきくんは、ある日エサ場にまぎれこんでいたアヤしいぶたを発見。正体を確かめようとあとをつけますが…。ぶためきくんの名前の由来とは？そしてアヤしいぶたの正体やいかに？ぶためきくんの絵本はシリーズであり、まちへいたり、うみへいたりします。どれもおすすめ。



ともだちや
内田麟太郎 作
降矢 なな 絵
偕成社



はじめは「や！」
香山 美子 作
むかい ながまさ 絵
すずき出版



ぶためきくんもりへいく
斉藤 洋 作
森田 みちよ 絵
偕成出版社

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だいごう ねんがつ
巡回学級文庫通信 第2号 2005年6月

あめ ひ
雨の日ってすてきな

6月になりました。6月といえば、梅雨。雨の日は外に遊びに行けなくて、テレビやゲームばかりの人、いませんか。今日は、雨の日の楽しいお話です。

最初は、「くろずみ小太郎旅日記」です。旅はよいもの、見知らぬところでいろいろと出会いがある。忍術を修行したりっばで愉快的な「炭」のくろずみ小太郎は、生まれてはじめて海へやってきた。ポツリ、ポツリと降り出した紫色の雨。すると、岩かげから貝を持った美しい娘が現れました。しかし、その娘は妖鬼アメフラシ姫の仮の姿、くろずみ小太郎危うし！

次は、どしゃぶりの雨が引き起こす混乱をユーモラスに描いた絵本「あめふりのおおさわぎ」です。ある土曜日の朝のこと、空がきゆうにかきくもり、雨がふりだした。にわとりがなき、犬はほえ、赤ちゃんがなきわめく。外では車がじゅうたいし、くだものはころがるし、人々はどなりあう。それでも、雨はざあざあふっている・・・。

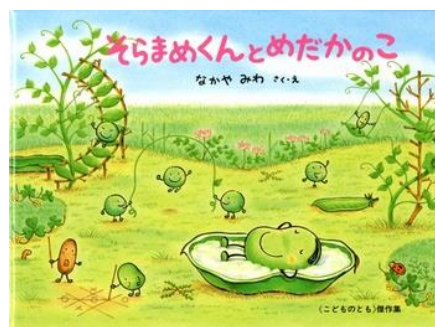
最後は、「そらまめくんとめだかのこ」の絵本です。そらまめくんの宝物はベッド。くものようにフワフワで、わたのようにやわらかい。えだまめくんたちには、ぜったいに使わせようとしません。そらまめくんたちが広場にできた水たまりで遊んでいると、迷子になっためだかのこに会いました。小川までどうやったら帰れるでしょう。知恵を絞って考えた方法とは・・・。



くろずみ小太郎旅日記
その3
飯野和好 作
クレヨンハウス



あめふりのおおさわぎ
シャノン 作
小川 仁央 訳
評論社



そらまめくんとめだかのこ
なかや みわ 作
福音館書店

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 3ごう ねん がつ
巡回学級文庫通信 第3号 2005年9月

おじいちゃんおばあちゃん

がつ にち けいろう ひ こんげつ なかよ
9月15日は敬老の日です。今月は、こんなふうにおじいちゃんおばあちゃんと仲良くなり

たいな、という本を紹介しします。

最初は、「おばあちゃんのすてきなおくりもの」です。もぐらとトガリネズミとハツカネズミの3人の男の子が、パッチワークのおふとんを作り、近所の一人暮らしのハタネズミのおばあちゃんにあげます。おばあちゃんはとても喜んで、みんなにすてきなおくりものをくれます。それは、だれかに喜んでもらうのはとてもうれしいこと、相手の気持ちを考えること……。それを教えてくれたことでした。

次は、「おじいちゃんの口笛」です。ぼくらは、老人ホームでおじいちゃんになってくれる人を見つけたんだ。それからぼくたちはきゆうにいそがしくなった。たこを作ったり、口笛を教えられたり、本当の孫のように仲良くあそんでくれたおじいちゃん。でも、誕生パーティーのあと、おじいちゃんは亡くなってしまったんだ……。

最後は、「おじいさんのハーモニカ」です。コオロギの声、森ガエルのざわめき、おじいさんが孫の女の子といっしょに過ごしたジョージアの夏は音楽にみちていました。でも病気になったおじいさんが街にうつり住んだとき、その音楽はもう聞こえませんでした。おじいさんが大好きな女の子は元気になってほしくて、おじいさんのハーモニカをふき、なつかしいジョージアの調べがふけるようになったとき、おじいさんの心にも音楽がもどってきます。



おばあちゃんのすてきなおくりもの
スティーフンス 作
のら書房

おじいちゃんの口笛
ウルフ・スタルク 作
ほるぷ出版

おじいさんのハーモニカ
グリフィス 作
佑学社

「おまめちゃん」

じんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 4ごう ねん がつ
巡回学級文庫通信 第4号 2005年10月

たべたいたべたい！おいしい話の本

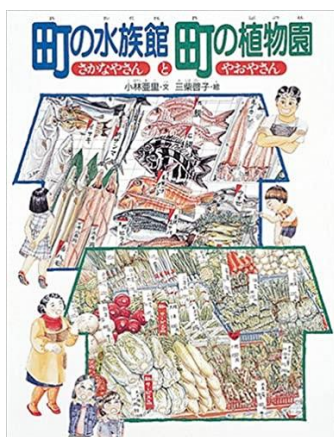
食欲の秋です。たくさん勉強して、たくさん遊べば、おなかペコペコ。今月は、お

いしいお話の本を紹介しします。いっぱい食べて、しあわせいっぱい！

最初は、「14ひきのかぼちゃ」です。これはかぼちゃの種、いのちのつぶだよ。そうおじいさんが言っ、一家は種まきをしました。たったひとつのかぼちゃの種から、つるが育って、収穫して、盛大なかぼちゃパーティーを開くまでを、14ひきのねずみといっしょにわくわくしながら体験しします。

次は、「町の水族館と町の植物園」です。日本には、さまざまな魚や野菜があります。住んでいる場所や季節によって、その種類はちがっています。この本は、京都の町にある魚屋さんに並んでいる夏の魚と、八百屋さんに並んでいる冬の野菜です。みなさんの家のちかくでは、どんな魚を売っているか、どんな野菜を並べているか、ぜひ調べてください。

最後は、「がぶりもぐもぐ」です。ああおいしいな！おいしいな！あるばん、土の中から、小さな芽がひとつ、あたまをもちあげた。小さな芽を食べたいのはだれかな？それはイモムシ。ああおいしいな！おいしいな！イモムシを食べたいのはだれかな？それはキリギリス。植物はイモムシに食べられ、イモムシはキリギリスに食べられ、キリギリスはクモに食べられ、……。つぎつぎに生き物たちは、食べたい食べたいという、生きるためのエネルギーにみちた行列を続けていきます。



14ひきのかぼちゃ
いわむらかずお 作
童心社

町の水族館と町の植物園
小林 亜里 作
福音館書店

がぶりもぐもぐ！
ミック・マニング 作
岩波書店

「おまめちゃん」

じゅんかいがっしゅうぶんこつうしん だいごう ねんがつ
巡回学級文庫通信 第5号 2005年11月

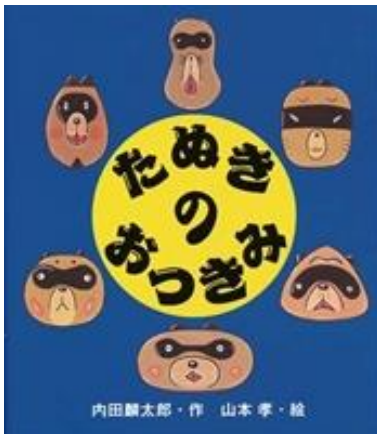
あき たのほん
秋を楽しむ本

あき 秋まっさかり。あき 秋というと思ひ浮かべるのは「紅葉」「いもほり」「スポーツの秋」「実りの秋」「食欲の秋」など、いろいろありますね。こんげつ 今月は、いろいろな秋をゆったりと楽しむ本を紹介しします。

さいしょ 最初は、「たぬきのおつきみ」です。あき 秋になっていなほ 稲穂が実り、やさい 野菜もたくさんできました。それをよろこぶ 村人たち。おすそわけをいただくやま 山のたぬきも大喜びです。さあ今日はおおよろこ 月見の夜です。おつきみ 月さまはよろこ 喜んでくれるでしょうか。

つぎ 次は、「きょうはピクニック」です。くまのベアールとちいさなむし 虫のタタンが、ドーナツをつくってピクニックに出かけます。そら 空は青く、かぜ 風もさわやかです。ところが、ベアールとタタンは、おか 丘から落ちてしまいます。ベアールとタタンとおおよろこ 月見の家族のところでした。

さいご 最後は、「つるばら村のくるみさん」です。くるみさんは、つるばら村でたけい 宅配のパン屋さんをしています。おいしいパンを、むら 村じゅうのひとたちに食べてもらえたらいいな、そう思っているくるみさんのところに、おきやく 客さんからパンのちゅうもん 注文がありました。きょうもくるみさんは、たんぽぽのはちみつ、ツルバラのじやむ ジャム、たっぷりこころ 心をこめたパンの生地をね 練りこんで、ふっくら焼きあげます。



たぬきのおつきみ
内田 麟太郎 作
岩崎書店



きょうはピクニック
原 京子 作
ポプラ社



つるばら村のパン屋さん
茂市 久美子 作
講談社

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だいごう ねんがつ
巡回学級文庫通信 第6号 2005年12月

クリスマスの本

12月になると、待ちきれないのがクリスマス。わくわくするのはみんな一緒ですね。

もらったプレゼントには、どうしたら相手によるこんでもらえるかな、というやさしい

気持ちがいっぱいつまっています。今月は、楽しいクリスマスの本を紹介しします。

最初は、「クリスマスのおくりもの」です。クリスマス・イブの夜、世界中の子どもたちにプレゼントを配りおわって、すっかりくたびれて家に帰ってきたサンタのおじいさんは、袋の中にまだ一つ残っていることに気がつきました。トナカイは寝かせたし、自分もくたくただったけど、サンタのおじいさんは、なんとかしてプレゼントを届けようとして、雪の中に出ていきます。

次は、「お祭りにいけなかったもみの木」です。森ではもみの木たちは、お祭りに着るドレスのことに夢中です。でも、いちばん小さいもみの木は仲間はずれ。もみの木たちは車でお祭りにいき、残された小さなもみの木は、年取ったもみの木とはげましあって森でクリスマスを迎えます。

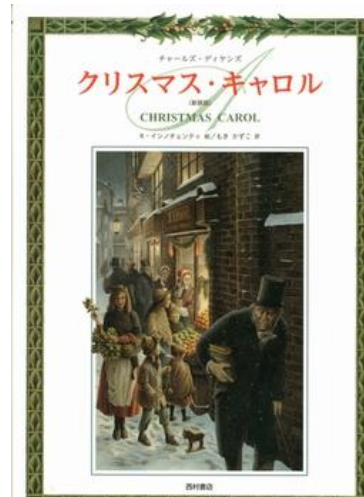
最後は、「クリスマス・キャロル」です。世界中の人たちにもっとも愛されているクリスマスの名作です。けちできらわれもののスクルージは、クリスマス・イブの夜も働いていました。すると死んだ仲間の亡霊と3人のクリスマスの幽霊たちが現われ、スクルージに過去・現在・未来を見せてくれます。



クリスマスのおくりもの
バーニンガム 作
ほるぷ出版



お祭りにいけなかった
もみの木
市川 里美 作
偕成社



クリスマス・キャロル
ディケンズ 作
西村書店

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい ごと ねん がつ
巡回学級文庫通信 第1号 2006年1月

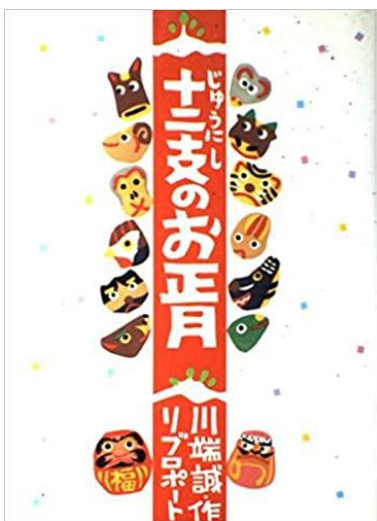
しょうがつ
お正月

あけましておめでとうございます。今年もよろしくおねがいます。冬休みは、大そうじ、おおみそか、お正月と、楽しいことがいっぱい続いて、すぐに3学期ですね。お節料理やおもちはいっぱい食べましたか？今月は、楽しいお正月の本を紹介します。

最初は、「十二支のお節料理」です。年越しが近づくと、家いえではお正月を迎えるための準備が始まります。新年を祝うお節料理を作るために、年神さまは十二の動物を選び、それぞれ順番に係を決めました。動物たちは力をあわせて準備をします。

次は、「七ふくじんとおしょうがつ」です。お年玉で買ったたこをあげたら、七福神がやってきて、とつてもにぎやかなお正月になりました。お節料理の意味や年神さまのことなど、お正月の由来も紹介されています。

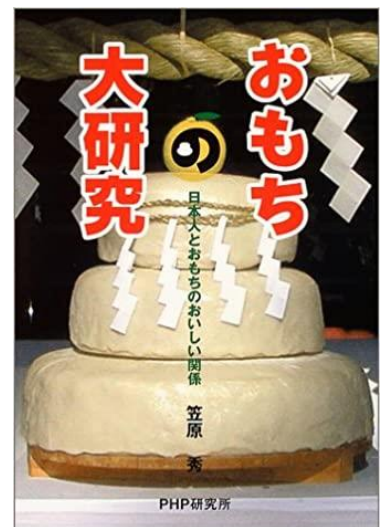
最後は、「おもちの大研究」です。あなたの家のお雑煮は丸もち？それとも角もち？白みそ？それともおすまし？あんこ入りのおもちを使ったお雑煮があるって、ほんとう？おもちはいつから作られるようになったの？おもちの秘密にせまる本です。



十二支のお節料理
川端 誠 作
BL出版



七ふくじんとおしょうがつ
山末 やすえ 作
教育画劇



おもちの大研究
笠原 秀 作
PHP研究所

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 8 号 2006年2月
巡回学級文庫通信 第8号 2006年2月

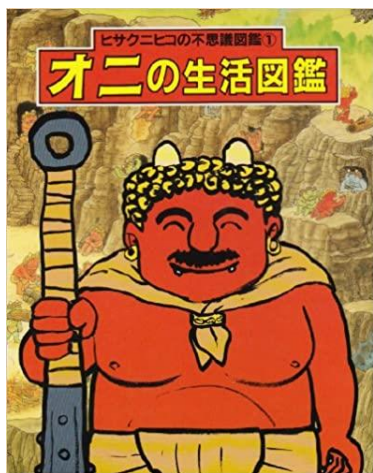
オニのお話

2月3日は節分です。みんなの家では、ひいらぎの枝にイワシの頭をさして、豆まきをして、自分の年の数だけ豆を食べましたか？オニは意外に身近にいます。おにごっこのおニや、オニのような人という言い方をすることもありますね。今月はこわくて優しい、オニについての本を紹介いたします。

最初は、「オニの生活図鑑」です。オニたちはどんなところに住んで、何を食べて、どんな仕事をしていたのでしょうか。山のオニと海のオニのくらしや行事をくわしく調べた本です。日本の豊かな自然の中で、オニたちは元気に力いっぱい楽しく暮らしていたようです。

次は、「おにのこくんがやってきた！」です。おには一そと、ふくは一うち。節分の夜、ぼくたちの家におにのこくんがやってきた。おにのこくんは「節分の鬼は人間についた悪い虫たちを捨ててあげるのがやくめなんだ」って言うけど、ぼくには虫なんかついてないのに……。

最後は、「こんにちはおにさん」です。本当はやさしいのに誰かがいると威張っていた鬼は、情けない姿をクマやイノシシに見られ、恥ずかしくて家から出られません。仲良しのイタチとタヌキは鬼の出てくるのを待ち続け、とうとう暑さに倒れてしまいました。恥ずかしがりな心のやさしい鬼のおはなしです。



オニの生活図鑑
ヒサ クニヒコ 作
国土社



おにのこくんがやってきた！
こわせ たまみ 作
PHP研究所



こんにちはおにさん
内田 麟太郎 作
教育画劇

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 9 号 2006年3月
巡回学級文庫通信 第9号 2006年3月

はる くる
春が来るよ！

この冬はとても寒かったですね。でももう春です。野原や山や、いろんな所で草木が

芽吹き、とてもきれいな季節です。なにか、わくわくしてきませんか？春は新しいことが

始まる季節です。今月は、春の絵本を紹介しします。

最初は、「はなをくんくん」です。雪深い森の中、冬眠から目が覚めて、動物たちはみんなではなをくんくんしながら走り出します。みんなが見つけた、とってもいいこと、うれしいこと。それは何でしょう。

次は、「はるはゆらゆら」です。そうそう、春って、ゆらゆらするのなんですか。ゆらゆらするのが春なのよ。ゆらゆらするのどうしてかな。それが春というものだ。それではゆらゆらおでかけします。ゆらゆら気分でおでかけします。ゆらゆらゆらゆら遊びます。春って、いいなあ。

最後は、「おおきくなるっていうことは」です。またひとつ大きくなったみんな、おめでとう。大きくなるってどんなことか、わかるかな。洋服が小さくなること、水に顔を長くつけられること、あんまり泣かないこと、それからほかにもいっぱいあるんだ。またひとつ大きくなったみんな、おめでとう。



はなをくんくん
ルース・クラウス 作
福音館書店



はるはゆらゆら
五味 太郎 作
小学館



おおきくなるっていうことは
中川 ひろたか 作
童心社

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 10 号 2006年5月
巡回学級文庫通信 第10号 2006年5月

ブックトークのすすめ

ブックトークとは、1つのテーマにそって、いろいろな本を紹介することをいいます。

今年も、河南町立中央公民館図書室の司書が、図書室にある子どもの本の中から、読んで

ほしいなと思うものを取り上げていきます。今月のテーマは「ことば」です。リズムのい

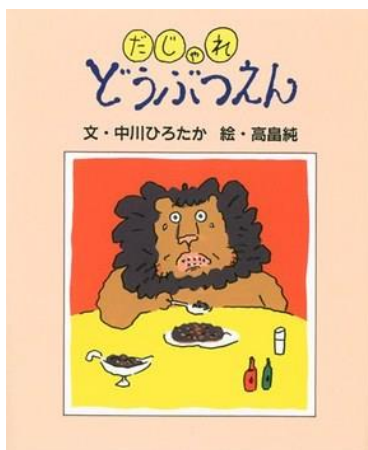
いことば、歯切れのいいことば、だじゃれ、なぞなぞ。ことばあそびを声に出して楽しむ

本を紹介します。

最初は、「だじゃれどうぶつえん」です。「ひっくりカエル」「わたし、かばいい?」「わっ ひつじ!」動物たちの様子をだじゃれで表現したおかしな動物園です。「だじゃれしょくぶつえん」「だじゃれすいぞくかん」もあります。

次は、「おひるのアヒル」です。「おひるのアヒル」「ラッコをだっこ」「かいじゅうのたいじゅう」ユーモアたっぷりのイラストを添えたことばあそび絵本です。同じシリーズがたくさんあります。

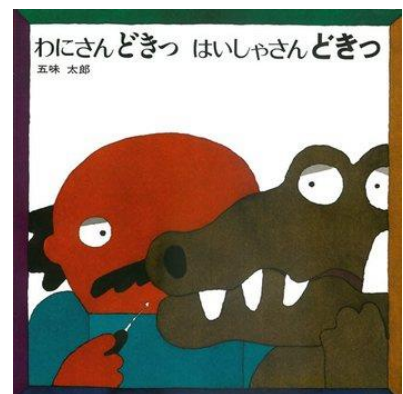
最後は、「わにさんどきっ はいしゃさんどきっ」です。歯医者さんがこわいワニさん、ワニさんにおびえる歯医者さん。同じ場面でそのふたりが言う言葉がまったく同じ。笑っちゃう本です。



だじゃれどうぶつえん
中川 ひろたか 作
絵本館



おひるのアヒル
中川 ひろたか 作
PHP研究所



わにさんどきっはいしゃさんどきっ
五味 太郎 作
偕成社

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 11 号 2006年6月
巡回学級文庫通信 第11号 2006年6月

おとうさん

6月18日は父の日です。みんなのおとうさんはどんな人かな？今月のテーマは「おとうさん」です。本の中には強いおとうさん、ちょっと頼りないおとうさん、がんばりやさんのおとうさんがいます。みんな子どものことをとても愛しています。そんな、ステキなおとうさんの本を紹介しします。

最初は、「おとうさんはウルトラマン」です。このウルトラマンは本物です。外ではとっても強いウルトラマン・パパでも、家に帰ってくればかいじゅうごっこで子どもに負けてあげます。どれだけ疲れてフラフラになって帰ってきても、子どもと遊ぶエネルギーだけは残してあります。いっしょうけんめい、まじめで不器用なウルトラマン・パパの子育て絵日記です。

次は、「ねえ、まだつかないの」です。せっかく家族で楽しく海に行くはずが、車の中でハリーとラリーの兄弟はおおさわぎ。うるさいったらありやしない。怒ったおとうさんは、車を止めておひるねしはじめました。二人はちゃんと海に行けるかな？

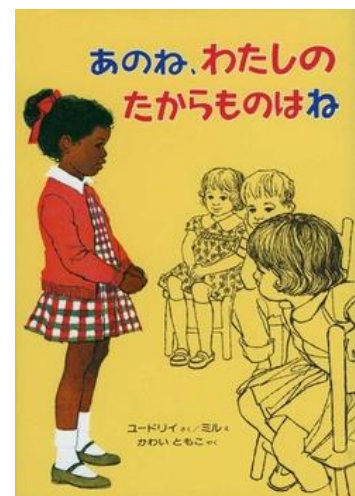
最後は、「あのね、わたしのたからものはね」です。1年生のメアリィ・ジョーは、クラスの友だちのように、自分のたからもの話をしたいのですが、いつもチャンスをのがしてしまいます。でもある日、誰も思いつかなかったすてきなたからもの話ができるのです。



おとうさんはウルトラマン
みやにし たつや 作
学習研究社



ねえ、まだつかないの
スティーブンソン 作
リブリオ出版



あのね、わたしのたからものはね
ユードリイ 作
偕成社

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 12 号 2006 年 9 月
巡回学級文庫通信 第 12 号 2006 年 9 月

がんばりやさんのひとたちへ

2 学期がはじまりました。みんな元気いっぱい学校に来ているでしょうね。夏休みに
いっぱい楽しんだ人の心の中には、がんばる力がいっぱいあります。今月のテーマは「が
んばりやさんのひとたちへ」です。本の中には、本当は不安なんだけど、少しだけ勇気を
出してがんばる子がいます。自分とおなじような子、見つかるでしょうか。

最初は、「ゆうかんなアイリーン」です。アイリーンは吹雪の中、おかあさんの仕立てた服を届けに
いきます。自分と同じくらい大きなドレスの箱を持って。途中いろんな大変なことが起こりますが、そ
れでも無事におつかいをすませます。

次は、「大森林の少年」です。10 才の少年マーベンは、生きのびるためにひとりで北の果ての大森林
へ向かいました。大人ばかりの木材の伐採現場で、会計係として認められ、とても可愛がられて成長す
る少年を描いています。

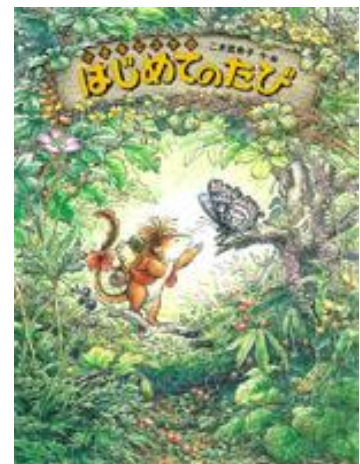
最後は、「小さなピスケのはじめてのたび」です。「自分の家は自分でさがすんだよ」お父さんにいわ
れて、ピスケは生まれてはじめての旅に出ました。風にとばされそうになったり、大氷に流されたりし
ながらも、やっとみつけたすてきな場所、それはピスケのすきなおひさまのあたたかいところ。



ゆうかんなアイリーン
スタイグ 作
セーラー出版



大森林の少年
ラスキー 作
あすなろ書房



小さなピスケのはじめてのたび
二木 真希子 作
ポプラ社

「おまめちゃん」

じゅんかいがらっきゅうぶんこつうしん だい 13 号 2006 年 10 月
巡回学級文庫通信 第 13 号 2006 年 10 月

まじょ まほう ほん
魔女と魔法の本

魔法が使えたらいいだろうなあ、欲しいものが手に入って、やりたいことがなんでもで

きちゃう。そんなことを思ったことありますか？今月のテーマは「魔女と魔法の本」です。

魔女さんたちも、学校で勉強したり、魔法を失敗したりしているんですよ！食べる人に

喜んでもらえる、おいしい料理を作ることもステキな魔法じゃないでしょうか。

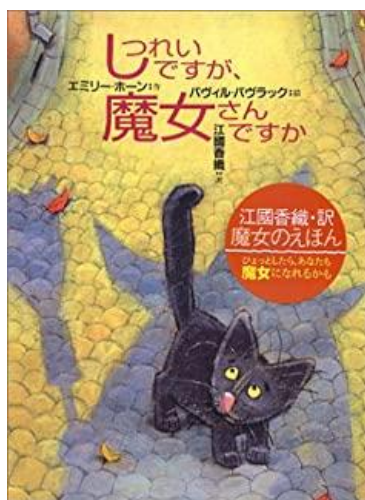
最初は、「小さな魔女のカプチャー」です。魔女メガンのもとで魔法を使う練習をはじめたカプチャーですが、ある日宿題をちゃんとやっていなくて、呪文をまちがえて、お料理番のニコラを小さな竜に変えてしまいました。ニコラをもとにもどすには、人魚のなみだが必要です。

次は、「しつれいですが、魔女さんですか」です。ひとりぼっちの黒猫ハーバートは、図書館で「魔女の百科事典」を読み、魔女が黒猫をかわいがることを知って魔女をさがしにでかけます。こわがられたり、おこられたりしながら、ハーバートは、魔女学校の生徒たちにめぐり合います。

最後は、「おばさんのごちそう」です。おばさんは料理の名人。お客さんと呼んでごちそうするのがなよりの楽しみ。きょうも小さいお客さんがやってきました。さて、どんなごちそうがでてくるでしょうか。



小さな魔女のカプチャー
グレバン 作
小峰書店



しつれいですが、魔女さんですか
エミリー・ホーン 作
小峰書店



おばさんのごちそう
五味太郎 作
絵本館

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 14 号 2006年11月
巡回学級文庫通信 第14号 2006年11月

はたらく人たちの本

11月23日は勤労感謝の日です。はたらく人たちがお互いの仕事を尊び、そのみのりをいらい感謝する日です。今月のテーマは、はたらく人たちの本です。他の人に必要とされて、喜んでもらえる、そして自分も楽しくはたらいっている、そんな仕事をしている人たちの本を紹介します。

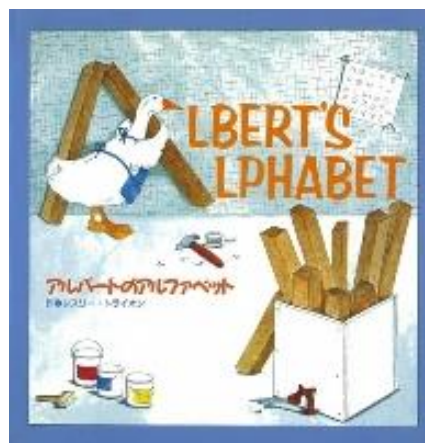
最初は、「カクレンボ・ジャクソン」です。カクレンボ・ジャクソンはずかしがりやで、めだつのがきらいでした。繊細で、感じやすいカクレンボくんは、心の中に、美しいものへのあこがれを育てていました。そのあこがれが彼を導いてくれたのは、どんな人生だったのでしょうか。

次は、「アルバートのアルファベット」です。学校大工のアヒルのアルバートは、校長先生から小学校の庭の散歩道にアルファベットを作るように頼まれます。アルバートがいろいろな材料を使いながら苦心して作ったアルファベットは、いつまでも子どもたちを楽しませてくれるでしょう。

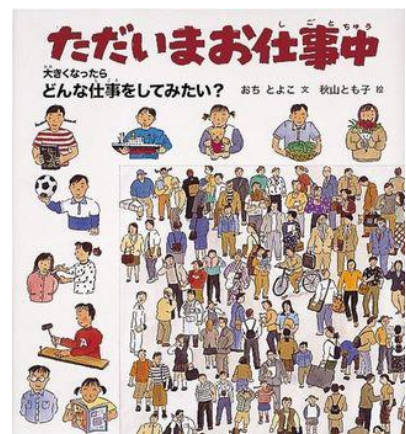
最後は、「ただいまお仕事」です。大きくなったら、どんな仕事をしてみたい？あこがれの仕事はなに？コック、美容師、医師、刑事、教師など、いろいろな職業で実際に活躍している人たち取材。それぞれの仕事に打ち込む人たちの声が聞こえてくるような本です。



カクレンボ・ジャクソン
ルーカス 作
偕成社



アルバートのアルファベット
レスリー・トライオン 作
BL出版



ただいまお仕事
おち とよこ 作
福音館書店

「おまめちゃん」

じゅんかいががっきゅうぶんこつうしん だい 15 号 2006年11月特別号
巡回学級文庫通信 第15号 2006年11月特別号

いじめについて考える

今回は、11月特別号として、いま問題となっている「いじめ」について考える本を紹介

します。子どもたちはもちろん、先生や保護者のみなさん、子どもにかかわるすべての人たちに読んでほしい本です。

最初は、「わたしのいもうと」です。本当にあった話をもとにしています。なにげないいじめによって傷つき、学校に行けなくなったわたしのいもうとは、心を閉ざしたまま。向こうをむいて、ふりむいてくれません。いもうとをいじめた同級生たちはそんなことなど忘れて中学生になり、高校生になっていきました。いもうとはあそびたかったのに、べんきょうしたかったのに……。

次は、「わたしのせいじゃない」です。ひとりの男の子が泣いています。はじまりはわかりません、どうしてそうなったのかだれも知りません。みんながやったんだもの、という言い訳が続いていきます。それでいいの？と問いかける本です。

最後は、「教室はまちがうところだ」です。子どもたちに「まちがえることをおそれちゃいけない」と励まし、まちがうなかで「ほんとのものを見つけていくのだ」「そうしてみんな伸びていくのだ」と語りかけます。作者の、そんな教室を作ろうやあ！という気持ちが伝わってくる本です。



わたしのいもうと
松谷 みよ子 作
偕成社



わたしのせいじゃない
レイフ・クリスチャンセン 作
岩崎書店



教室はまちがうところだ
蒔田 晋治 作
子どもの未来社

「おまめちゃん」

じゅんかいがらつきゅうぶんこつうしん だい 16 号 2006年12月
巡回学級文庫通信 第16号 2006年12月

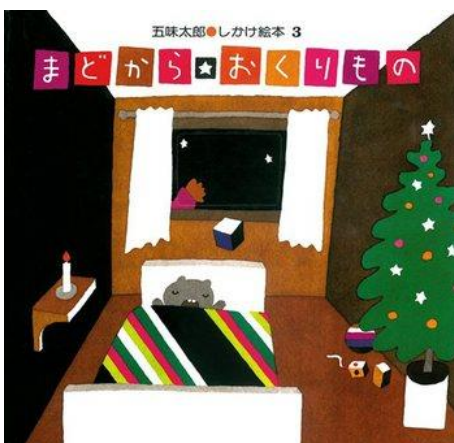
おくりもの

12月といえばやっぱりクリスマス。今年はサンタさん、何をプレゼントしてくれるかな、と待ちきれない人もいるでしょう。今月は、やさしい気持ちのこもったおくりもの本を紹介します。

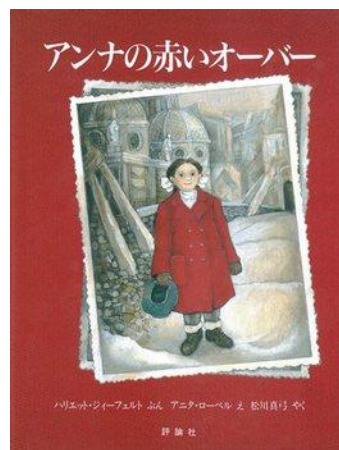
最初は、「まどから☆おくりもの」です。サンタクロースがやってきて、窓からおくりものをくばってまわります。まどの中をのぞいて、サンタさんはその子にぴったりのおくりものをえらびます。でも、チョッピリしか見えないから、あわてもののサンタさんはちょっとちがうものをあげてしまいます。

次は、「アンナの赤いオーバー」です。アンナの古いオーバーはすり切れているうえ小さくなっていました。お母さんは戦争が終わったら新しいのを買いましょうと約束しました。でも戦争が終わってもオーバーもなければ食べ物もない。お店がからっぽなのです。アンナのオーバーを手に入れるために、お母さんはお百姓さんに金の時計と羊毛を取りかえてもらうことにしました。それから何人もの手を経てアンナは次の冬、暖かい赤いオーバーを着ることができました。

最後は、「ふゆじたくのおみせ」です。おおきなクマさんとちいさなヤマネくんは、ふゆじたくのお店へ買い物に行きました。ちいさなヤマネくんはおおきなセーターをクマさんにあげるため、おおきなクマさんはちいさなチョコッキをヤマネくんにあげるため、どんぐりをたくさんあつめます。欲しいな、あげたいな、こんなおくりもの。



まどから☆おくりもの
五味 太郎 作
偕成社



アンナの赤いオーバー
ジーフェルト 作
評論社



ふゆじたくのおみせ
ふくざわ ゆみこ 作
福音館書店

「おまめちゃん」

じゅんかいがっしゅうぶんこつうしん だい 17 号 2007年1月
巡回学級文庫通信 第17号 2007年1月

ふゆ ほん
冬をたのしむ本

あけましておめでとうございます。3学期がはじまりましたね。まどのそとは寒いけれど、ストーブの前でじっとしてないで、元気にあそびましょう！スキーにスケート、それに焼き芋、おなべパーティ、冬にしか楽しめないことはいっぱいありますね。今月は、冬をたのしむ本を紹介します。

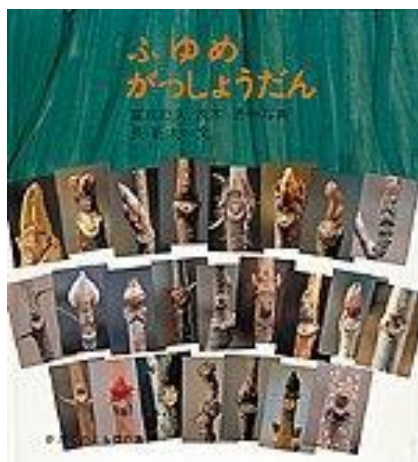
最初は、「ふゆのあさ」です。ふゆのあさ。しずちゃんはいつものように目がさめました。なんだか、しずか。いつもとちがう、とってもしずか。あっ、もしかして、そうかもしれない……。ほら、やっぱり、雪だよ！。雪のふった朝の、いつもとちがうわくわくした気持ちを描く絵本です。

次は、「ふゆめがっしょうだん」です。冬の公園や学校で、木の芽をみると、ほら、ウサギさんがいたり、コアラ君がいたりします。冬芽が動物たちの顔にみえてきます。顔に見えるところは、葉っぱがあったことです。これから葉や花になるものが小さくたたまれていて、春をまっています。これからぐんぐんのびてゆくところです。

最後は、「大きなおなべのレストラン」です。うさぎおばあちゃんはいなかの古い家にすんでいます。こどもたちも大きくなって町へ出ていき、大きなおなべがのこりました。そして、おばあちゃんはとくいのシチューをみんなに食べてもらう、すてきなレストランを出すことにしたのです。



ふゆのあさ
村上 康成 作
ひかりのくに



ふゆめがっしょうだん
富成 忠夫 作
福音館書店



大きなおなべのレストラン
竹下 文子 作
国土社

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 18 号 2007年2月
巡回学級文庫通信 第18号 2007年2月

からだのことがわかる本

2月は1年のなかでもいちばんさむい時期です。かぜをひいたり、おなかをこわしたりしていませんか？ どうしてさむいときは、のどがいたくなり、せきが出て、かぜをひくのでしょうか。虫歯ってどうしてできるの？ 走るとどうして胸がドキドキするの？ 今月はいろんなからだの不思議がわかる本を紹介しします。

最初は、「ドラえもん からだ大探検」です。人間の体の中には、コンピュータよりすごい頭脳や、どんな機械にもまねできない精密な器官がぎっしりつまっています。どこにどんな器官があり、どんな役割をしているのか、ドラえもんといっしょに、からだの不思議をのぞいてみよう！

次は、「ゲーとピー」です。まよなか、かずこちゃんはきもちがわるくてゲーをしてしまいました。しんぱいするお母さんと次の朝、たぬき先生のびょういんへ。ゲーはどうして出るのか、はんたいにピーは何のためなのか、先生がやさしく教えてくれます。

最後は、「あたしもびょうきになりたいな」です。エドワードがびょうきになりましたエドワードは、ベッドでごはんを食べたり、おばあちゃんに本を読んでもらったり……。それを見ていたエリザベスはうらやましくてたまりません。「あたしもびょうきになりたいなあ！」と思っていると、ほんとうにびょうきになってしまいました。さてエリザベスはびょうきになって楽しかったのでしょうか？



ドラえもんからだ大探検
藤子・F・不二雄 作
小学館



ゲーとピー
毛利 子来 作
福音館書店



あたしもびょうきになりたいな
フランzenベルク 作
偕成社

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 19 号 2007年3月
巡回学級文庫通信 第19号 2007年3月

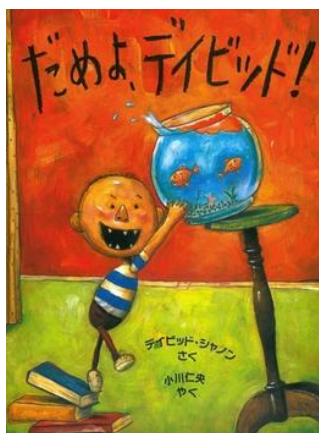
あなたのことが大好きよ！

「あなたのことが大好きよ！」こう言ってもらうのは、とてもうれしいものです。でも、ことばにして、相手の目の前で伝えるのってちょっと恥ずかしいし、うまく言えるかわからないし、むづかしいですね。今月は、いろいろな言い方で、あなたのことが大好きよ！と伝えてくれる本を紹介しします。

最初は、「だめよ、デイビッド！」です。お風呂でさわぐ、おもちゃはちらかす、たべものであそぶ、そんなデイビッドにママはいつもいう。「だめよ、デイビッド。だめ。だめ。だめ。」って。でもね、ママはデイビッドのことが大好きなんです。

次は、「すえっこおおかみ」です。ちいさなすえっこおおかみは、にいさんやねえさんたちといっしょにあそばず、すみっこでみえています。にいさんのようにまっすぐに転がれないし、ねえさんのようにはやく走れないので悩んでいるのです。お父さんおおかみは、そんなすえっこおおかみに、もっと大きくなってからできるようにするんだよ、とやさしく言ってくれます。

最後は、「みしのたくかにと」です。「あさがおかかもしれない、すいかかかもしれない、とにかくたのしみ」ふとっちょおばさんが種をまいたそばに、こんな札をたてました。さて、どんな芽が出てくるのでしょうか。これは、ひとつぶの小さな種から「とにかくたのしみ」が実るまでのおはなしです。



だめよ、デイビッド！
デイビッド・シャノン 作
評論社



すえっこおおかみ
フリマー 作
あすなろ書房



みしのたくかにと
松岡 享子 作
こぐま社

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 20 号 2007年5月
巡回学級文庫通信 第20号 2007年5月

ブックトークのすすめ

「おまめちゃん」も20号となりました。ブックトークとは、1つのテーマにそって、いろいろな本を紹介することをいいます。河南町立中央公民館図書室の司書が、図書室にある子どもの本の中から、みなさんに読んでほしいなと思うものを取り上げていきます。今月のテーマは「学校」です。

新学期がはじまりましたね。あたらしい学年、あたらしい先生、あたらしいともだちに、わくわくドキドキしますね。今月は、本の中のすてきな学校を紹介します。

最初は「とてもすてきなわたしの学校」という絵本です。学校のなまえはなんでもスクール。どこにでもある学校に見える。ところが、それがちがっている。わたしたちみんな、この学校がだいすき。ゆかいな学校の先生たちのおはなしです。

次は「うわさのがっこう」という絵本です。虫たちのおきにいりは、森のどこかにあるらしい、古い学校のうさわ話。だれも行ったことがないのに、だれでも知っている学校です。入学式のうわさ、へんなしゅくだいのうわさなど、きょうも小さなはなしのたねが、あちらこちらで花をさかせます。

最後に、「教室はまちがうところだ」です。子どもたちに「まちがえることをおそれちゃいけない」とはげまし、まちがうなかで「ほんとのものを見つけていくのだ」「そうしてみんな伸びていくのだ」と語りかけます。作者の、そんな教室を作ろうやあ！という気持ちが伝わってくる本です。



とてもすてきなわたしの学校
ドクター・スース 作
偕成社



うわさのがっこう
きたやま ようこ 作
講談社



教室はまちがうところだ
蒔田 晋治 作
長谷川 知子 絵
子どもの未来社

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 21 号 2007年6月
巡回学級文庫通信 第21号 2007年6月

じだいげき ほん
時代劇の本

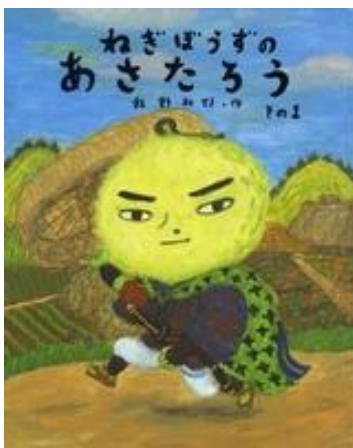
♪じーんせーい、らーくありや、くーもあるさー♪という歌を知ってますか？歌える？

テレビでも、映画でも時代劇はよくやっていますね。おさむらいさんがいて、和服を着ていて、ちょっと今と言葉づかいがちがいますね。絵本の中にもおもしろい本がたくさんあります。今月は時代劇の特集でござる。

最初は「ねぎぼうずのあさたろう」という絵本です。ねぎぼうずのあさたろうは、しいの実のおよちゃんを悪い奴から救い、旅に出る。茶店で出会った怪しい浪人を、ねぎじると、わさび、とうがらしの粉でやっつけた。東海道を西へ西への旅がらす。あさたろうの旅はまだまだ続く。

次は「あっぱれアスパラ郎」という絵本です。宿場町のかんぱん娘、お玉のところへ、今日もじゃがの一家の芋吉がやってきた。「おい、お玉。おいらのよめこになれ」いやがるお玉にだきつこうとする芋吉。そこへ現われたのは、まぼろしの剣士、忍者アスパラ郎！

最後は、「おさむらいさんでござる」です。せっしゃはおさむらいさんでござる。りっぱなおさむらいさんは、自分を「わたし」とか「ぼく」とか言わずに「せっしゃ」というのでござる。そんなおさむらいさんが仕えるお殿さまはまだ赤ちゃん。いろいろと大変なのでござる。



ねぎぼうずのあさたろう
飯野 和好 作
福音館書店



あっぱれアスパラ郎
川端 誠 作
BL出版



おさむらいさんでござる
安田 のり 作
絵本館

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 22 号 2007年9月
巡回学級文庫通信 第22号 2007年9月

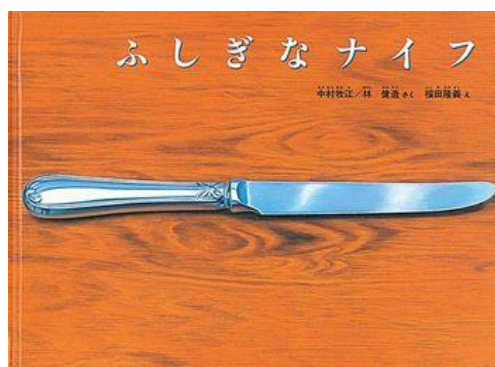
み たの ほん
見て楽しむ本

えほん 絵本というと、おはなしがあって、それを表現する文があって、絵がそのようすを描いて
いる、というイメージがありますね。よい絵本とは、絵に力があり、絵を見ることによつ
て豊かな物語を読みとれるような本のことをいいます。でも今月は、おはなしの本では
なくて、ちょっとかわった、絵や写真を見て楽しむ本を紹介しします。

さいしょ 最初は「ミッケ! 8」です。みんな大人気の、「ミッケ!」シリーズ第8弾。こんどは学校でさが
そう。こくばん、こうさく、バレンタインデー、こうてい、おはなしげきじょうなどを舞台に、かくれ
ているものを探し出す、あたらしくてなつかしいかくれんぼ絵本です。

つぎ 次は「ふしぎなナイフ」です。ちょっとみたら、普通のナイフが食卓におかれています。ページをめ
くると、ナイフがまがって、ねじれて、とけて、ほどけて、最後にふくらんでいく。なかなかみられな
いような、ナイフのふしぎな変身。静かに、力強く変わっていくナイフに、注目!

さいご 最後は、「エイラトさんのへんしんのうじょう」です。絵本のページをめくってごらん。色々な形と
色の動物がいっぱい出てくるよ。耳やひげがあったでしょう。口や鼻はどんなかな?じっくりながめた
その後で、形と色を工夫して、動物をもっと作ってみよう。



ミッケ! 8がっこう

ウィック 写真
小学館

ふしぎなナイフ

中村牧江/林健造 作
福音館書店

エイラトさんのへんしん
のうじょう

エイラト 作
偕成社

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 23 号 2007年10月
巡回学級文庫通信 第23号 2007年10月

かぞくの本

まいにち がっこう から かえ ると、「ただいまー、おなかすいた。今日の晩ご飯なに？」と言っ
てい
ませんか？帰ってからみんなでおいしいごはんを食べて、今日あったことをおしゃべりし
て、そしてお風呂にはいってゆっくり寝る。うーんちょっと勉強もしなくっちゃね。そん
なふつうの日って、とてもしあわせなんだと思います。今月は、毎日いっしょにいる、か
ぞくの本を紹介しします。

最初は「ぎゅうぎゅうかぞく」です。としお君の家の前で、「としお君、遊ぼう」っていったら……。
ぼくの友達、八百屋のとしお君の家は、全部で11人と1匹の大家族。みんなぎゅうぎゅう暮らしてる。
温かく楽しい大家族を描いた絵本です。

次は「おとうさん・パパ・おとうちゃん」です。「とうさん」「とうちゃん」「パパ」「おとうちゃん」
家ではそんなふうに呼ばれているおとうさんたち。おしごとときは何て呼ばれているのかな？いろい
ろな仕事のおとうさんが登場するよ。

最後は、「うちのママってすてきな」です。うちのママってほんとにすてき。チョウチョみたいに
美しく、ソファみたいに気持ちいい。あたしをうんと笑わせてくれるし、スーパーママなの！でもね、
それだけじゃない。ママがほんとうにすてきなのは、あたしを大好きなこと！



ぎゅうぎゅうかぞく
ねじめ 正一 作
すずき出版



おとうさん・パパ・おとうちゃん
みやにしたつや 作
すずき出版



うちのママってすてきな
アンソニー・フラウン 作
評論社

「おまめちゃん」

じゅんかいがらっきゅうぶんこつうしん だい 24 号 2007年11月
巡回学級文庫通信 第24号 2007年11月

みしのたくかにと

「みしのたくかにと」とは何でしょう？すぐにわかりましたか？「とにかくたのしみ」です。いくらがんばっても上手にできなかつたり、うまくいかなかつたりすることがありますよね。悩んだり落ち込んだりすることも大事なんですよ。ゆっくり考えてから、「とにかくたのしみ」な本を読んで、うふふと笑って明日も元気にがんばりましょう！

最初は「オー・スッパ」です。きみはついうっかり、あのレモンをガブリッとやってしまったことがあるかい。もしあるなら、きみもりっぱなぼくらのスッパともだち。動物たちがふとしたことから、思わずきいろいレモンをかじってしまいます。オー スッパ！。

次は「へんしんコンサート」です。さあ、これからふしぎなコンサートが始まります。歌うとなぜかみんな変身しちゃうんです。では、最初の方どうぞ！声に出して読んでみると、いろいろなものが変身するふしぎなことはあそび絵本です。

最後は、「みしのたくかにと」です。「あさがおかかもしれない、すいかかかもしれない、とにかくたのしみ」ふとっちょおばさんが種をまいたそばに、こんな札を立てました。さてどんな芽が出てくるでしょう。これはひとつぶの小さな種から、「とにかくたのしみ」が実るまでのたのしいお話です。



オー・スッパ！
高島 純 作
講談社



へんしんコンサート
あきやただし 作
金の星社



みしのたくかにと
松岡 享子 作
こぐま社

「おまめちゃん」

じゅんかいがらっきゅうぶんこつうしん だいごう ねんがつ
巡回学級文庫通信 第25号 2007年12月

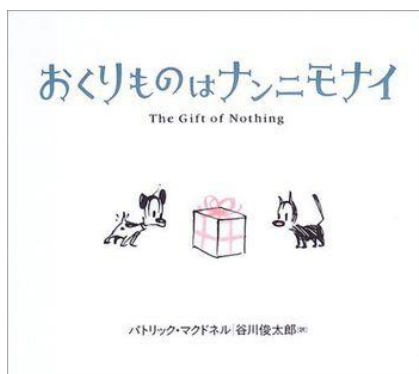
てづく
手作り

ふゆやす 冬休みには、ごちそうやプレゼント、お年玉や旅行、おうちの人にとっては、お金のか
かることばかりです。ときには、相手の人を思うやさしい気持ちをこめて、作る楽しさと贈る
楽しさのある手作りに挑戦してはどうでしょう。今月は、手作りがテーマです。

さいしょは「セレスティーヌのクリスマス」です。どうしてもパーティーを開きたいセレスティーヌは、
お金がないからと、しぶっていたアーネストを動かし、ふたりでいっしょけんめいツリーと首飾り、
ごちそうとプレゼントを作りました。こんなすてきなパーティーが手作りでできたのです。

つぎは「おくりものはナンニモナイ」です。ネコのムーチは、だいすきなイヌのアールにおくりものを
したかった。でもアールはなんでも持っている。なんでも持っている友だちを喜ばせるものって何だろ
う？ そうだ、「ナンニモナイ」をあげればいいんだ「ナンニモナイ」はどこにあるんだろう・・・。

さいごは、「クッキングKIDS」です。この料理はどうしてできるの？「固まる」秘密、「くさる」秘密、
料理にはいろいろな秘密がかくされているよ。自然の不思議から環境問題まで、料理をしながら台所で
科学しよう！



セレスティーヌのクリスマス
ガブリエル・バンサン 作
BL出版

おくりものはナンニモナイ
パトリック・マクドネル 作
あすなろ書房

クッキングKIDS
関登 作
小学館

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 26 号 2008年1月
巡回学級文庫通信 第26号 2008年1月

やりたいことにチャレンジ

あけましておめでとうございます。「1年の計は元旦にあり」と言います。どんな1年にしたいですか？やりたいことにはどんどんチャレンジしましょう。がんばって出来たことや、出来なかったこと、うれしいこと、くやしいこと、すべて大切な経験となりますよ。

最初は「エレナのセレナーデ」です。太陽の国メキシコに暮らす、太陽のように元気な女の子エレナ。ガラス吹きになることを反対されたエレナは、男の子のふりをし、吹きさおを持って家を出ます。目指すは、ガラス吹き職人たちが集まるモンテレイの町。エレナがさおを吹くとメロディーが流れ出し、夢にあふれた旅がはじまります。

次は「うそつきの天才」。「もう、うそはつかない」と誓いながら、しょうこりもなく友だちの前で作り話をひろうするウルフ少年。自称「うそつきの天才」は、やがて文学にめざめ、作文の時間に、想像力の豊かな文章を書くようになり、才能が開花します。

最後は、「やればできるよランドルフ」です。ランドルフは子どものふくろねずみです。ふくろねずみは、しっぽで木のえだにぶらさがって眠ります。でもランドルフはそれができないのです。みんな「やればできるよ」って言うのですが・・・。



エレナのセレナーデ
キャンベル・ギースリン 作
BL出版



うそつきの天才
ウルフ・スタルク 作
小峰書店



やればできるよランドルフ
エレン・コンフォード 作
国土社

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 27 号 2008年2月
巡回学級文庫通信 第27号 2008年2月

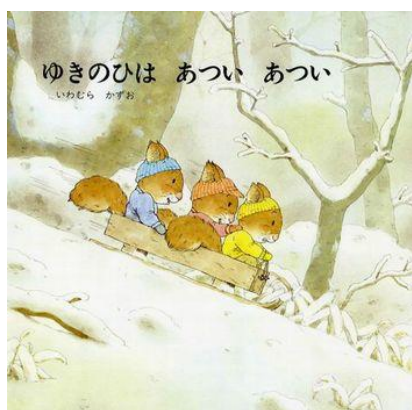
ゆき
雪

寒い日が続きます。この前は雪がつもりましたね。一日じゅう遊べるほどではなかったのが残念です。雪だるまや雪合戦。雪がつもったら、楽しいことがいっぱいです。今月のテーマは「雪」です。

最初は「ゆきのひはあついあつい」です。森に雪がつもって、こりすのぱろとぴことぼろはおおよろこび。おとうさんといっしょにあそびたいけれど、おとうさんは、「さむいさむい」とストーブのそば。いやがるおとうさんをやっとなつてきて、さあ、そりあそびです。

次は「ワニぼうのゆきだるま」です。ワニぼうとお父さんは、お父さんとお母さんとワニぼうの雪だるまをこしらえました。でも、雪だるまは少しさびしそうです。ワニぼうとお父さんは、3つの雪だるまをくっつけました。次の朝、さんぽにでかけた3人がみつけたものは、のはらじゅうのなかよしこよしの雪だるまでした。

最後は、「雪の写真家ベントレー」です。アメリカの豪雪地帯の小さな農村の農夫だったベントレーは、50年にわたって、くふうをこらしながら雪の写真を取りつづけ、世界中の多くの人に雪の結晶の美しさや神秘をおしえてくれました。ベントレーの一生をつづった伝記絵本です。



ゆきのひはあついあつい
いわむら かずお 作
至光社



ワニぼうのゆきだるま
高島 純 作
文芸堂



雪の写真家ベントレー
メアリー・アゼアリアン 作
BL出版

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 28 号 2008 年 3 月

中央公民館図書室

たいせつなもの

「あなたのたいせつなものはなんですか？」 山本敏晴 写真・文 の本の中に

こういう文章があります。

「あなたの たいせつなものは なんですか？
あなたの めのまえにいるひとの たいせつなものは なんですか？
あなたの きらいなひとの たいせつなものはなんですか？
その すべてを たいせつだと おもってください。」

最初は「あなたのたいせつなものはなんですか？」です。あなたの一番たいせつなものはなんですか？よく考えてみてください。周りの人に相談したりせず、必ず自分で考えるのです…。物、人、精神的なものなど、カンボジアの子どもたちが描いた絵が多くを語りかけてくる本です。

次は「いわたくんちのおばあちゃん」です。いわたくんちのおばあちゃんは、写真を撮られることを嫌がります。それには悲しい理由があったのです。被爆から60年目の夏に、ある小学校で実際に行われた平和を考える授業。そこで語られた1枚の写真をもとにしたお話です。

最後は、「21世紀に生きる君たちへ」です。「君たちは、いつの時代でもそうであったように、自分に厳しく、相手にはやさしく、という自己を確立せねばならない」と、作家・司馬遼太郎が、小学生のために書いた文章です。小学校国語の教科書にも収録されています。



あなたのたいせつなものは
なんですか？
山本 敏晴 写真・文
小学館

いわたくんちのおばあちゃん
天野 夏美 作
主婦の友社

21世紀に生きる君たちへ
司馬 遼太郎 作
朝日出版社

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 29 号 2008年5月
巡回学級文庫通信 第29号 2008年5月

ブックトークのすすめ

ブックトークとは、1つのテーマにそって、いろいろな本を紹介することをいいます。

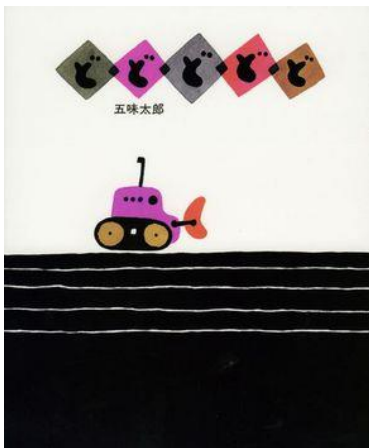
今年は、河南町立中央公民館図書室の司書が、図書室にある子どもの本の中から、読んで

ほしいなと思う作家の本を取り上げていきます。今月の作家は「五味太郎」です。

最初は、「どどどどど」です。ちっちゃなブルドーザーくんが、五線譜にのって出かけます。でこぼこ道も、坂道も、どどどどど、と進んでいきます。ドレミの音がメロディーになり、文字になり、やがてゆったりと言葉がきこえ、おはなしが見えてくる本です。

次は、「とうさんまいご」です。デパートで買い物をしているうち、まいごになったお父さんを、男の子さがします。物かげからちらっとみえる、お父さんににたようふくの人、ぼうしの人、くつの人。あれあれ、なかなか見つかりません。切り抜きしかけを使った、さがす楽しさが詰まった本です。

最後は、「なつはぐんぐん」です。どこかで夏の音。ぐんぐんぐんぐん。お花がぐんぐんぐんぐん。白い雲ぐんぐんぐんぐん。おひさまぐんぐんぐんぐん。いぬくとねこちゃんがぐんぐん海へこぎだして、ぐんぐん冒険をはじめます。夏をいっぱい味わう本です。



どどどどど
五味 太郎 作
偕成社



とうさんまいご
五味 太郎 作
偕成社



なつはぐんぐん
五味 太郎 作
小学館

「おまめちゃん」

じゅんかいがくきゅうぶんこつうしん だい 30 号 2008年6月
巡回学級文庫通信 第30号 2008年6月

ガブリエル・バンサンの本

1928年、ベルギーのブリュッセルで生まれました。優れたデッサン力で世界的な評価を受けています。甘いだけではない、深い愛情を描いたすばらしい本を数多く出版しています。2000年に亡くなりました。

最初は、「アンジュール」です。車から1匹の犬が捨てられます。すぐに犬は追いかけてますが、車は行ってしまい、おいてきぼりになった犬の旅が始まります。ひとりぼっちでさまよう犬。やがてひとりの少年と出会います。鉛筆のデッサンで描かれた、色もことばもない絵本です。絵が語りかけてきます。

次は、「ナビル」です。先生の話に聞いた壮大なピラミッドに魅せられ、ひたすらに自分の足で歩いてそれを見たいと思った少年ナビル。その思いの背中を押すように手を貸してくれる何人かの大人たち。砂漠を歩きつづける少年に託した「生きること」の意味を求め描いた本です。

最後は、「セレスティーヌのおいたち」です。「ひとりぼっちでいたの、わたし?」「そう、ひとりぼっちだった。だから、ぼくがきみをいえにつれてきたんだよ、マフラーにくるんでね」。捨て子だったセレスティーヌは育ててくれたアーネストに自分の生い立ちを聞きたいと言いだします。アーネストは、セレスティーヌと出会えてどれほどうれしかったか、ということをお話します。



アンジュール
ガブリエル・バンサン 作
BL出版



ナビル
ガブリエル・バンサン 作
BL出版



セレスティーヌのおいたち
ガブリエル・バンサン 作
BL出版

「おまめちゃん」

じゅんかいがらつきゅうぶんこつうしん だい 31 号 2008年9月
巡回学級文庫通信 第31号 2008年9月

はせがわ よしふみ ほん
長谷川 義史の本

いましゆん いきお きつか ひと えほん じどうしょ も おも て
今が旬の、勢いのある作家をあげるとすればこの人です。絵本も児童書も、どれも思わず手にとり
たくなる、おもしろい本ばかりです。

さいしょ は、「いっきよくいきまあす」です。きょうは、ぼくとおとうさんとかあさんの3人でカラオケに
行きました。ミスターカラオケの司会で2時間のコースです。まずは「めだかの学校」「森のくまさん」
から始めて、おしまい「津軽海峡冬景色」「どうにもとまらない」まで、はりきってどうぞ。

つぎ は、「パンやのろくちゃん」です。商店街のパンやのろくちゃん、いつも元気で顔がパンパン。今日
はお母さんにおつかいをたのまれた。今夜のカレーの肉をたのまれたのに、ろくちゃんがかつてきたの
は、にんにく、しょうが、はくさい、ひきにく。今夜のメニューはぎょうざになった。

さいご は、「いいからいいから 2」です。おじいちゃんとぼくは温泉旅行に行った。仲居さんがごは
んを用意してくれたら、3人前並んでいる。あれれ、おかしいなあ。おじいちゃんは言った。「ま、い
いからいいから」。夜、目を開けるとおばけが笑っていた。マッサージしたり、温泉をすすめたり。「ま、
いいからいいから」。あららおばけが家についてきちゃったよ。



いっきよくいきまあす
長谷川義史 作
PHP 研究所



パンやのろくちゃん
長谷川義史 作
小学館



いいからいいから 2
長谷川義史 作
絵本館

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 32 号 2008年10月
巡回学級文庫通信 第 32 号 2008年10月

高島 純の本

よい絵本には、絵がいきいきと動き出すような、ことばと絵に迫力があります。高島純

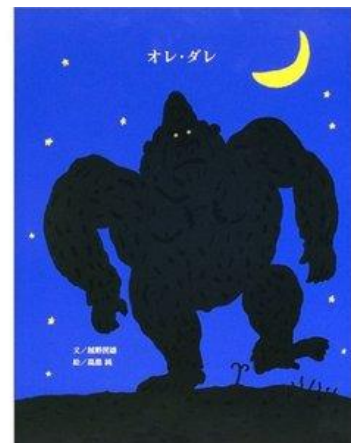
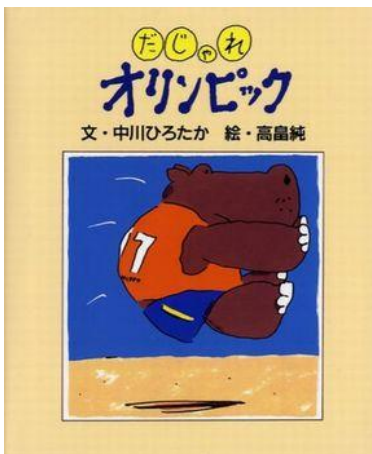
は、このことばにはこの絵しかないでしょう！という作家です。うふふと笑って、楽しめる、

おもしろい絵本をたくさん作っています。

最初は、「だじゃれオリンピック」です。「おちてもへいきんだい！」「たいそういたそう」「バスケットボール」「だんごシュート」などなど、オリンピック種目をテーマにした、おなかも心も笑顔でいっぱいになるだじゃれ絵本です。

次は、「なんでしょなんでしょ」です。ペンギンが砂浜に絵をかきました。なんでしょなんでしょ。うわっ、たこ。今度はたこが絵をかきました。なんでしょなんでしょ……。さあお次は何か？次々と動物たちが登場して、今度海に行ったら、砂浜でのびのびと絵をかきたくするような絵本です。

最後は、「オレ・ダレ」です。夜になったらでかけてみよう。夜は元気をためるとき。暗やみの中に、たのしい仲間がたくさん待っている。オレ、せがたかい。すごくとおくがみえる。でもあしがとってもほそい。だからきをつけないと、つまずいたらヤじゃない。オレ、ダレだ。



だじゃれオリンピック
文・中川ひろたか
絵・高島純
PHP 研究所

なんでしょなんでしょ
高島純 作
アリス館

オレ・ダレ
文・越野民雄
絵・高島純
講談社

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 33 号 2008年11月
巡回学級文庫通信 第33号 2008年11月

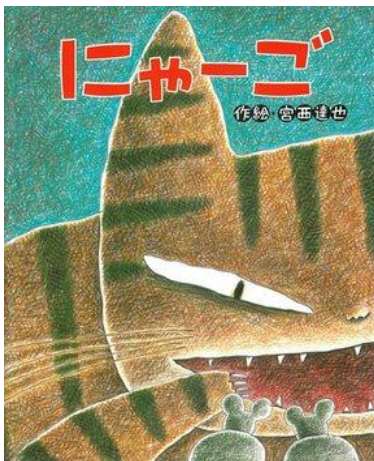
みやにし たつやの本

すぐれた絵本・児童書には、押し付けがましくない、深い愛情が描かれています。みやにし たつやは、愛情とユーモアをたっぷり込めた素晴らしい絵本をたくさん描いています。うふふと笑って、じーんとくる、そんな読書タイムをたくさん持てたらいいですね。

最初は、「にゃーご」です。「ねこは怖くて恐ろしいから気をつけなさい」ということを知らなかった3匹のねずみの前に、大きなねこがとつぜんあらわれて「にゃーご!」。ところが、ねずみたちは、「いっしょに、ももを取りに行かない?」とねこをさそいます。

次は、「おまえうまそうだな」です。おなかをすかせた恐竜ティラノサウルスが、アンキロサウルスのあかちゃんを見つけてとびかかろうとすると、アンキロサウルスは、「おとうさん」とティラノサウルスにしがみつきました。あやうし、アンキロサウルスのあかちゃん!

最後は、「あしたのぼくは」です。ぼくはピーマンもニンジンも食べられない。自転車もしょうずに乗れないし、サッカーもへた。でも、あしたのぼくはきょうのぼくとはぜったい違う! あしたのぼくは、きっと何でもできるはず・・・。



にゃーご
みやにし たつや 作
すずき出版



おまえうまそうだな
みやにし たつや 作
ポプラ社



あしたのぼくは・・・
みやにし たつや 作
ポプラ社

「おまめちゃん」

じゅんかいがらっきゅうぶんこつうしん だい 34 号 2008年12月
巡回学級文庫通信 第 34 号 2008年12月

さいとうりゅうすけ たきだいらじろう ほん
斎藤隆介と滝平二郎の本

すぐれた文学作品は、時代を超えて生き続けます。名作と言われる本には感動を伝える

力があります。人のもつ強さと優しさを描いた斎藤隆介と滝平二郎の本は、出版され

てから20年以上たちますが、今後も長く多くの人々に読まれ、その胸の中に生き続けること
とでしょう。

最初は、「ソメコとオニ」です。いっしょうけんめい遊ぶのが大好きな5つの女の子、ソメコ。まわりの大人は忙しくて遊んでくれません。ところがある日、少しどこやら怖い顔をしているけれど、いくらでもソメコと遊んでくれるおじさんがあらわれました。

次は、「半日村」です。一日のうちに半日しか日のあたらない半日村。後に大きな山がそびえているため、半日しか日がささないのです。この貧しい村に少しでも日があたるようにと、村の後の山をけずろうと決心した一平。はじめは村の人たちは笑っていました。

最後は、「花さき山」です。おなごわらしのあやは、山菜をとりにいって迷い込んだ山奥で、やまんばに会います。やまんばは、あやに、自もさめんばかりのいちめんの花を見せます。この花は、ふもとの村のにんげんが、やさしいことをするとひとつ咲くのです。



ソメコとオニ
斎藤隆介 作
滝平二郎 絵
岩崎書店

半日村
斎藤隆介 作
滝平二郎 絵
岩崎書店

花さき山
斎藤隆介 作
滝平二郎 絵
岩崎書店

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 35 号 2009年1月
巡回学級文庫通信 第35号 2009年1月

いもとようこの本

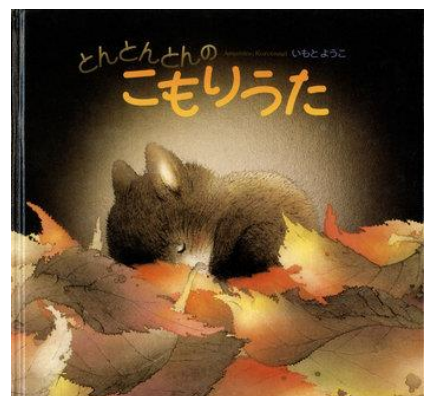
あけましておめでとうございます。寒い日がつづきますが、かぜをひかないようにね。

今月は心があたたかくなるような、いもとようこの本を紹介します。

最初は、「えりまきの花」です。広場で雪合戦をしていたたっちゃんは、近くの木の枝にえりまきをかけておきました。しばらくして見ると、えりまきがありません。雪の上に小さな足跡が続いています。たっちゃんは、あしあとをつけていくことにしました。

次は、「しゅくだい」です。めえこせんせいがいいました。「みなさん、きょうのしゅくだいは“だっこ”です。おうちのひとにだっこしてもらってください。すると、みんないっせいに、「えー、うそー」「やだー」「はずかしいよー」とおおさわぎ。おやおや「やだー」っていついたもぐらのもぐくん。いそいでおうちにかえります。

最後は、「とんとんとんのこもりうた」です。南の島にすむアマミノクロウサギの赤ちゃんは、巣穴にひとりでお留守番。とんとんとん、とんとんとん・・・。お母さんうさぎが穴をふさぐ音が、赤ちゃんの耳にはこもりうた。アマミノクロウサギの不思議な子育てを描いた絵本。



えりまきの花
中島和子 作
いもとようこ 絵
ひかりのくに

しゅくだい
宗正美子 原案
いもとようこ 絵
岩崎書店

とんとんとんのこもりうた
いもとようこ 作・絵
浜田太 協力
講談社

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 36 号 2009年2月
巡回学級文庫通信 第36号 2009年2月

レオ・レオニの本

レオ・レオニの絵本に出てくる小さな主人公たちの前には、多彩で豊かな世界が広がっています。それは、絵本という小さな窓を通して、思索と想像力の世界へと読者を誘います。聡明で健康な知恵とユーモアのある、詩情ゆたかなレオ・レオニの絵本を紹介いたします。

最初は、「フレデリック」です。冬に備えて、せっせと食料を集めて働くのねずみたち。でも、フレデリックだけはじっとして動かない。寒くて暗い冬の日のために「おひさまのひかり」を、灰色の冬のために「いろ」を、長い冬の間に話の種が尽きないように「ことば」をあつめています。

次は、「チコときんいろのつばさ」です。つばさのない小鳥のチコは、歌うこともはねることもできましたが、飛ぶことだけはできませんでした。しかしある日、不思議な鳥にねがって金色のつばさを手に入れます。でも、なかまたちはチコをおいて、飛び去ってしまいます。

最後は、「コーネリアス」です。わにのコーネリアスは、卵からかえったときから、立って歩いてできた。大きく強くなるにつれ、ますますはわなくなって、ほかのわにと違うものをみるようになった。そんなコーネリアスはほかのわには受け入れられない。コーネリアスは出て行くことにした。



フレデリック
レオ・レオニ 作
好学社

チコときんいろのつばさ
レオ・レオニ 作
あすなろ書房

コーネリアス
レオ・レオニ 作
好学社

「おまめちゃん」

じゅんかいがらきゅうぶんこつうしん だい 37 号 2009年2月
巡回学級文庫通信 第37号 2009年2月

齋藤孝の本

さいとうたかし は、にほんごのよさをみなおもしろいぶんしょうあつこえだよ
齋藤孝は、日本語の良さを見直そうと、面白い文章を集めた、「声に出して読みたい

にほんご「さんしょくよにほんごおとなほんかこんげつひと
日本語」「三色ボールペンで読む日本語」などの大人の本を書いています。今月は、この人

が子どもたちに、日本語の良さ、ことばの力を伝えようと書いた本を紹介します。

さいしょは、「こくごであそぼ」です。「寿限無」「星の王子さま」「犬だろぼうホツツェンプロツツ」など、
しょうがくせいならだれでもよめるたのしいはなしまんさいきしやうてんけつほうしきいろいほんものがたり
小学生なら誰でも読める楽しい話が満載。「起承転結」方式で色々な本や物語がスイスイ読めるよう
になる1冊です。

つぎは、「おくのほそ道」です。「おくのほそ道」から俳句を選びすぎり、芭蕉の旅をたどりながら、俳句
たのえほんこえほかに「なまむぎなまごめなまごあぶら
を楽しむ絵本です。「声にだすことばえほん」のシリーズで、他に「生麦生米生卵」「がまの油」など、
どれも楽しい絵本です。

さいごは、「頭がよくなる必殺！読書術」です。「本を読むといいことがあるぞ！」「らくがき読書術」
ってなんだ？「かど折り読書術」ってどうやるんだ？「名場面ベスト3」を選べばカンペキ！「読書術」
がグーンとあがる方法を紹介。「ガツンと一発」のシリーズで、「勉強なんてカンタンだ！」など読んで
ほしい本がたくさんあります。



こくごであそぼ
齋藤孝 作
文藝春秋

おくのほそ道
松尾芭蕉 文
齋藤孝 編 中谷靖彦 絵
ほるぷ出版

頭がよくなる必殺！読書術
齋藤孝 作
PHP研究所

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 38 号 2009年5月
巡回学級文庫通信 第38号 2009年5月

ブックトークのすすめ

ブックトークとは、1つのテーマにそって、いろいろな本を紹介することをいいます。

河南町立中央公民館図書室の司書が、図書室にある子どもの本の中から、みなさんに

読んでほしいなと思うものを取り上げていきます。今回は「詩」の本を紹介します。

最初は、「さんぽうた」です。おさんぽしていたら、びっくりしたり、さびしくなったり、いろんな気持ちがわいてきたよ。ぼくはそれをノートに書いてみたんだ。よんだらさんぽにいきたくなっちゃう！ほんわりたのしいつぶやきノートです。

次は、「だじゃれはだれじゃ」です。♪とんてんかんてん かじやおっさん かんてんくつても かんてんするな♪ げんきをつけたら さんぽにいきな など、まどみちおと阪田寛夫による楽しい詩に、かみやしんのイマジネーションあふれる絵がぴったりと合う本です。

最後は、「みえる詩あそぶ詩きこえる詩」です。ことばの魔術師はせみつこが編集したとびきりおいしい詩集。読んで、きいて、口ずさんで楽しめることばあそびの詩がいっぱい。声に出しても、心の中にしまっておいてもほんわかしてくる本です。



さんぽうた
ねじめ 正一 作
市居 みか 絵
ポプラ社



だじゃれはだれじゃ
まどみちお・阪田寛夫 作
かみや しん 絵
小峰書店



みえる詩あそぶ詩きこえる詩
はせ みつこ 編
飯野 和好 絵
富山房

「おまめちゃん」

じゅんかいがっくうぶんこつうしん だい 39 号 2009年6月
巡回学級文庫通信 第39号 2009年6月

おいしそうな本

本を読んでいて「おいしそう！食べたいな！」と思ったことはありませんか？今月の本は、

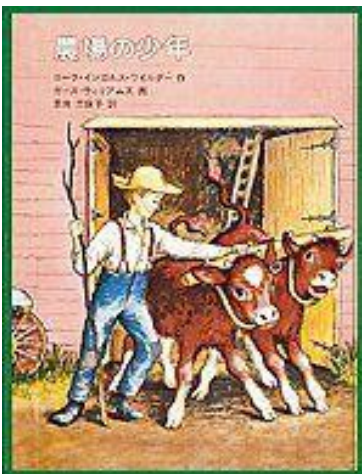
物語としてすばらしいのはもちろん、「食べたいな！」と思える食べ物がたくさん出てく

る本を紹介します。少しむずかしいので、高学年になったらぜひ読んでくださいね。

最初は、「農場の少年」です。ローラ・インガルス・ワイルダーの「大草原の小さな家」シリーズのうち1冊です。農場に住む少年アルマンゾは9歳、学校へ行くよりも、父さんの農場の手伝いをして馬や牛といっしょにいるほうが楽しいのです。すばらしく大きなカボチャもそだてました。

次は、「妖怪アパートの幽雅な日常」です。稲葉夕士が高校入学と同時に始めた、あこがれの下宿生活。おさない頃に両親を事故でなくしたため、はやく独り立ちするのが夢です。ところがそのアパートには、ちょっと変わった、しかし心やさしい「住人」たちがくらしていました。

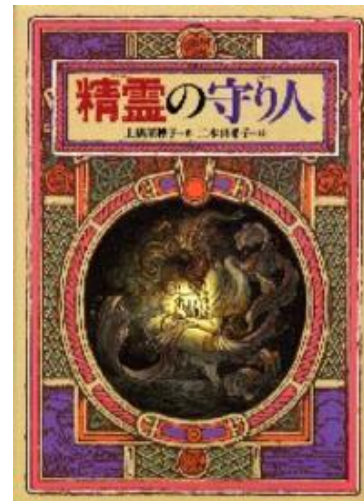
最後は、作家上橋菜穂子の守り人・旅人シリーズの本です。文学性の高い作品を次々にえがきだす、当代一の書き手である人ですが、その作品には実に素朴でおいしそうな食べ物が出てきます。その香りや味を想像すると、うっとりとしてきます。物語とともに、味わってください。



農場の少年
ワイルダー 作
福音館書店



妖怪アパートの幽雅な日常
香月日輪 作
講談社



精霊の守り人
上橋 菜穂子 作
偕成社

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 40 号 2009年9月
巡回学級文庫通信 第40号 2009年9月

あいうえおの本

文字やことばを無理におぼえるより、まずリズムカルに読んでみましょう。表情ゆたかに唱えて楽しめば、ことばの世界のすばらしさが開けてきます。イメージ豊かな絵にさそわれて、日本のことばの美しさ、豊かさに知らず知らずひきこまれていきます。

はじめは、「あいうえおにぎり」です。あいうえおにぎり ぺろっとたべて かきくけころっけ あつあつたべて さしすせそーめん するするたべて たちつてとんかつ むしゃむしゃたべた…。全部ひらがなの詩の絵本。ひとつひとつ声を出して読んでみてください。

次は、「あるひあひるがあるいていると」です。ある日 あひるが 歩いていると 頭に あなの あいた あんころもちが 足もとから あらわれて あいたたた！…。「あ」のつくことばだけで、お話が書かれています。日本語って、こんなにおもしろい、言葉であそぶ本です。

最後は、「あっちゃんあがつく」です。あっちゃん あがつく あいすくりーむ いっちゃん いがつく いちごじゃむ……。「あ」から「ん」まで、たべものがいっぱい。うたってうれしくなるような、はやし歌においしそうな絵をつけた、楽しい絵本です。



あいうえおにぎり
ねじめ正一 作
いとうひろし 絵
偕成社



あるひあひるがあるいていると
二宮由紀子 作
高島 純 絵
理論社



あっちゃんあがつく
みねよう 原案
さいとうしのぶ 絵
リーブル

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 41 号 2009年10月
巡回学級文庫通信 第41号 2009年10月

はっばとどんぐりの本

あき 秋になると色づく葉っぱ。たくさん転がっているどんぐり。よく見てみると、ひとつひとつちがついていきます。きれいな葉っぱやどんぐりを集めて、小さな美術館のできあがりです。あき 秋はいろいろ、おしゃれないろいろ、うれしいいろいろ。

はじめは、「はっばじゃないよ ぼくがいる」です。はっばかな？はっばじゃないよ ぼくがいる。めとめがあえば ともだちのはじまり。あいた穴の具合がまるで人間の目のように見える、おかしくてかわいいはっばの写真がたくさん集めました。森の中のたくさんの「顔」に出会える写真絵本。

次は、「コロコロどんぐりみゅーじあむ」です。どんぐり山にも秋がやってきた。かきこそ、かきこそ。三つ子のどんぐり、ひたいをよせてはじまった、あそびの相談。日本で出会える27種類のどんぐりがせいぞろい。実物とほぼ同じ大きさの、どんぐりの写真ものっています。

最後は、「秋は林をぬけて」です。秋はいつもの道をそれて、林をぬけて、家にかえる。わたしのお気にいりの道。林をぬけると、りんご畑、ぶどう畑へとつづく。畑では、とうさんと、かあさんが働いている。ある日、とうさんの使いでおじさんちに、ぶどうとりんごを届けることになった。



はっばじゃないよぼくがいる
姉崎 一馬 文・写真
アリス館



コロコロどんぐりみゅーじあむ
いわさき ゆうこ 作
アリス館



秋は林をぬけて
小泉るみ子 作・絵
ポプラ社

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だいごう ねんがつ
巡回学級文庫通信 第42号 2009年11月

きょうだい

おにいちゃん、おねえちゃん、おとうと、いもうと。いちばん仲がよくて、いちばんけんかする。大事な家族で大事なともだち。でもいいたいことはいっぱいあります。きいてください、ぼくの、わたしの言いぶん。

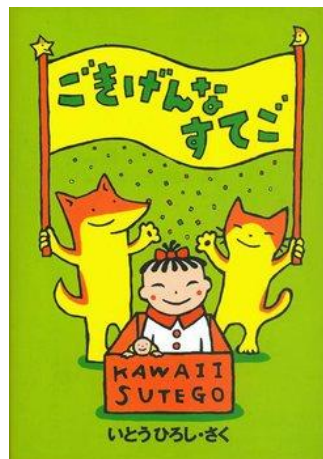
はじめは、「ぼくのかわいくないいもうと」です。いもうとは、「ぼくのかわいいいもうと」なんていう名前なまえの絵本えほんが大好き。だけどいもうとは、おしゃべりで、でしゃばりで、ちっともかわいくない。さいあくなことに、うちではへやがいっしょ。もういやになっちゃう！

次は、「ごきげんなすてご」です。お母かあさんはおとうとばかりかわいがる。あたしのことなんかほったらかし。それならあたしはすてごになろう。すてきなおうちにもらわれるんだ！家出した女の子いえて おんな こと、すてごなまの動物どうぶつたちが大かつやく。たのしく、ほろりとするお話はなしです。

最後は、「だいかいじゅうオニタイジ」です。きょうは、おにいちゃんとふたりでおるすばん。でもね、おにいちゃんたら、ぼくを泣なかすんだ。ぼくは、ずっと泣なきつづけていた。するとどうだ、ぼくは、だいかいじゅうオニタイジになったんだ。



ぼくのかわいくないいもうと
浜田桂子 作
ポプラ社



ごきげんなすてご
いとうひろし 作
徳間書店



だいかいじゅうオニタイジ
いとうひろし 作
ポプラ社

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 34 号 2009年12月
巡回学級文庫通信 第 43 号 2009年12月

ステキなまほう

クリスマスが近づくと、家族とあたたかい時間をすごしたくなります。また、みんな楽しい時がすごせますように、と願いたくなります。クリスマスには、まほうや奇跡を信じたくなる、そんな不思議な力があるようです。今月は、まほうつかいじゃなくても、だれでもできるステキなまほうの本を紹介しします。

はじめは、「ハーブ魔法のふしぎなレシピ」です。ジャレットは、ふつうの人間の女の子。ところがある日、ふしぎな手紙が届いて、ハーブ魔法トパーズの家を相続できることになったのですが、その条件は、その家に住んで、その家に気に入られることだったのです。

次は、「なんでも魔法商会」です。なんでも魔法商会は、人間以外の生き物ならみんな知ってる、信用ある魔法のおみせです。そんな商会の中でも、お洋服のお直しを専門にしている評判の支店がお洋服リフォーム支店です。本当にご用のある人が、本当にご用のあるときにだけ行きつくことができるお店なのです。ところがある日、人間の女の子ナナが、用もないのにリフォーム支店にやってきます。

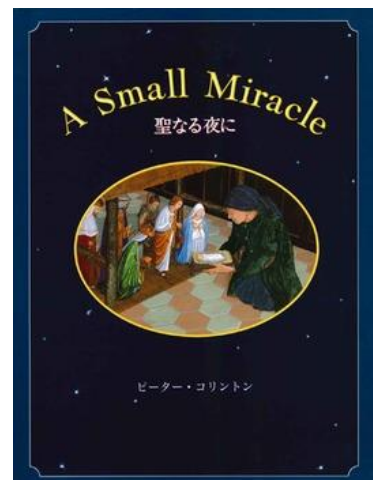
最後は、「聖なる夜に」です。これは、文字のない絵本です。クリスマス・イブの晩に、ひとりのおばあさんが雪の中でたおれています。たきぎと食料を買うためのわずかなお金を、バイクに乗ったひったくりに奪われてしまったのです。奇跡がおきる特別な夜。おばあさんを助けにあらわれたのは…。



ハーブ魔法のふしぎなレシピ
あんびるやすこ 作
ポプラ社



なんでも魔法商会
あんびるやすこ 作
岩崎書店



聖なる夜に
ピーター・コリントン 作
BL出版

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 44 号 2010年1月
巡回学級文庫通信 第44号 2010年1月

わふう
和風

あけましておめでとうございます。今年もよろしくおねがいます。いい年になるといいですね。たのしいお正月で、元気いっぱいになったことと思います。お正月は1年のなかでも、おせち料理やおぞうに、初もうでにお年玉と、とっても和風にすごす時ですね。

今日は、やっぱり和風っていいなあ、という本を紹介しします。

はじめは、「十二支のおはなし」です。年の暮れに、神さまが言いました。「新年のごあいさつにきなさい。はやいものから順に十二番目まで、一年間ずつその年の大将にしてあげよう」動物たちは大喜び。さてさて、だれが一番になるのやら・・・。

次は、「おせちいっかのおしょうがつ」です。おおみそかに、家族みなでおせちの準備をするはこださんち。重箱の中では、たくさんのおせち料理たちも大忙し！さて、おせち一家はどんなふうにお正月を迎えるのかな？かわいいイラストで描くおせちの絵本です。

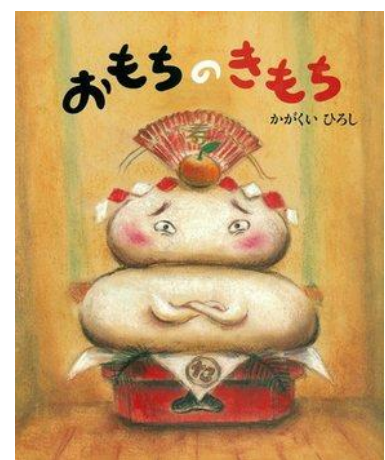
最後は、「おもちのきもち」です。おもちだって、いろいろなやみがあるんです。きょうだいたちは、にんげんにたべられてしまうし・・・。そこでわたくし「かがみもち」は、お正月、とある決心をいたしました！びっくり、めでたい「おもちワールド」へ出発。



十二支のおはなし
内田麟太郎 文
山本孝 絵
岩崎書店



おせちいっかのおしょうがつ
わたなべ あや 作
佼成出版社



おもちのきもち
かがくい ひろし 作
講談社

「おまめちゃん」

じゅんかいがらっきゅうぶんこつうしん だい 45 号 2010年2月
巡回学級文庫通信 第45号 2010年2月

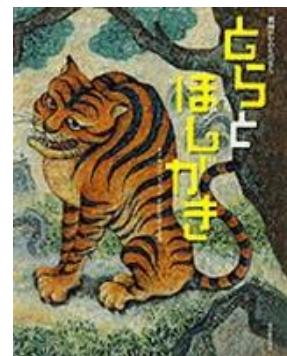
韓国のおはなし

韓国は、日本にいちばん近くて、いちばん古くからの交流のある国ですが、韓国のおはなしは、あまりよく知られていないかもしれません。今月は、日本のおはなしとどこか同じで、どこか違う、なぜかなつかしいような、韓国のおはなしを紹介しします。

はじめは、「しろいはうさぎ」です。クモの巣は白い。白いはうさぎ。うさぎはとぶよ。とぶのはカラス。カラスは黒い。黒いは岩山。岩山は高い。高いはお空・・・。韓国の濟州島の人々に唄い継がれてきたわらべ唄をもとにつくられた本です。

次は、「こかげにごろり」です。山を越えた山里に、それはのどかな村がありました。百姓たちは働き者で、助け合いながら仲良く暮らしていました。でも、百姓たちに土地を貸している地主がとても欲張りで、お米や麦をどっさり横取りするのです・・・。

最後は、「とらとほしがき」です。アイゴー！とらが叫んで逃げ出した。「とうとう干し柿が、わしをとって食おうというのだな」とらが干し柿をこわがる、そのわけは・・・。古くから韓国に伝わるゆかいな昔ばなしです。



しろいはうさぎ

クオン ユンドク 文・絵
チョン ミヘ 訳

福音館書店

こかげにごろり

かなもりしょうさく 再話
チョン スクヒャン 絵

福音館書店

とらとほしがき

パク ジェヒョン 再話・絵
おおたけきよみ 訳

光村教育図書

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 46 号 2010年5月
巡回学級文庫通信 第46号 2010年5月

ブックトークのすすめ

ブックトークとは、1つのテーマにそって、いろいろな本を紹介することをいいます。

河南町立中央公民館図書室の司書が、図書室の本の中から、みなさんに読んでほしいなど

思うものを取り上げていきます。今年は小学生向けの読み物の本を紹介します。

最初は、あんびるやすこの「魔法の庭」シリーズの中の「二代目魔法のハーブティー」です。ハーブ魔法トパーズの家を受け継いで薬屋さんをはじめたジャレット。ついに、はじめてのおきやくさんがやってきました。ジャレットと同じ年ごろの女の子です。ところがスーの態度に腹が立ったジャレットは思わず自分でも思いがけないことを言っていました。

次は、くぼしまりおの「ブンダバー」シリーズの中の「ブンダバーのネコの手がします」です。ホルムという小さな港町に、ブンダバーという名前のネコがいます。見ただけなら、どこにでもいる黒ネコですが、なんと人の言葉が話せるネコなのです。

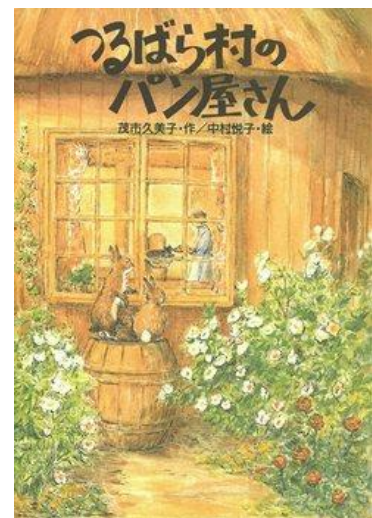
最後は、茂市久美子の「つるばら村」シリーズの中の「つるばら村のパン屋さん」です。くるみさんは、つるばら村で、宅配のパン屋さんをしています、おいしいパンを、村じゅうのひとたちに食べてもらえたらいいな……。そう思っているくるみさんは、きょうもたつぷり心をこめて、ふっくらパンを焼きあげます。



二代目魔法のハーブティー
あんびるやすこ 作
ポプラ社



ブンダバーのネコの手がします
くぼしまりお 作
佐竹美穂 絵
ポプラ社



つるばら村のパン屋さん
茂市久美子 作
中村悦子 絵
講談社

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 47 号 2010年6月
巡回学級文庫通信 第47号 2010年6月

香月日輪（こうづきひのわ）

しょうがくせいむ 小学生向けのファンタジーの読み物では、女の子が活躍するものがありますが、

こうづきひのわ 香月日輪は、女性作家ながら、元気で強くたくましい男の子が主人公です。もちろん、物語

なかで 出てくる女の子もきっぱりとカッコよくて、友達ちになりたいなと思います。

はじめは、「地獄堂霊界通信」シリーズです。見たか、きいたか！？上院小のイタズラ大王三人悪を！
てつし、椎名、リョーチンの三人組。授業はさぼるわ、イタズラはしまくりだわ、町内じゃ、知らぬもの
とてないワルガキトリオ。だけど、ときどき正義の味方。こいつらが幽霊や妖怪どもとたたかうこと
になったから、もうたいへん。

次は、「妖怪アパートの幽雅な日常」です。夕士が高校入学と同時に始めた、あこがれの下宿生活。
幼いころに両親を亡くしたため、早くひとり立ちをするのが夢でした。ところがそこには、ちょっと
変わった、しかし人情味あふれる住人たちが暮らしていました。妖怪アパートだったのです。

最後は、「大江戸妖怪かわら版」シリーズです。少年・雀は魔の都・大江戸に落ちてきた。星空を竜
が飛び、夜空を大こうもりが飛び、城には巨大なガイコツが住む妖怪都市に、ただひとりの人間とし
て・・・。大江戸をかけ抜ける、かわら版屋の記者、雀の活躍がはじまります。



「地獄堂霊界通信
ワルガキ、幽霊にびびる！」
香月日輪 作
ポプラ社



「妖怪アパートの幽雅な日常」
香月日輪 作
講談社



「大江戸妖怪かわら版
異界から落ち来る者あり」
香月日輪 作
理論社

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 48 号 2010年9月
巡回学級文庫通信 第48号 2010年9月

ほんを よく読む、ほんずきの人へ

子ども向きの本、児童書の中には、大人向けの本にも負けない、すぐれた内容をもつものがたくさんあります。大人が読んですばらしいと思えなければ、よい児童書とはいえないのです。今月は、あまりたくさんの本を書きはいませんが、すぐれた作家の本を紹介します。低学年のみなさんは、いつかこんな本を読んでくださいね。

はじめは、「天山の巫女ソニン」です。生後まもなく巫女に見こまれ、天山につれていかれたソニンは、12年間の修行ののち、素質がないと里に帰される。3つの国を舞台に、運命に翻弄されつつも明るく誠実に生きる、落ちこぼれ巫女ソニンの物語。

次は、「かはたれ」です。鎌倉の人里に近い山の中に、いくつかの池や沼があり、そこには河童族の生き残りが人目をさけて暮らしていた。そこから、河童のこどもが小さな猫に姿を変えて、修行のためにやってきた。心の問題を抱える少女のもとに……。

最後は、「えんの松原」です。栄華をきわめる花の都のまん中に、怨霊たちのすみかがあった。何ものかにたたられた、若き皇子・憲平と、女装の少年・音羽は、真実を求めて、世の闇、人の心の闇へと深く分け入ってゆく。



「天山の巫女ソニン」
菅野 雪虫 作
講談社



「かはたれ」
朽木 洋 作
福音館書店



「えんの松原」
伊藤 遊 作
福音館書店

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 49 号 2010年10月
巡回学級文庫通信 第49号 2010年10月

ほんよ ほんよ ほんよ
本を読みはじめた人へ

ていがくねん
低学年のみなさんは、えほん
絵本もいいけれど、すこ
少しずつ本を読みでいけるようになってきま
すね。もじよ
文字を読むだけでなく、もじひょうげん
文字で表現された物語を読みでいけるようになってきているの
です。こんげつ
今月は、ほんよ
本を読みはじめた人たちにおすすめの、おもしろい本を紹介します。

はじめは、「こうえんのシロ くいしんぼうのあき」です。こいぬのシロは、なかまたちとこうえん
で仲よくくらしています。あき
秋になるとなぜかお腹がすいて、いつも食べ物のことばかり考えているこい
ぬのシロ。今日もごちそうを想像しながらどろだんごを作っていると…。

つぎ
次は、「ペンギンたんけんたい」です。「エンヤラ、ドッコイ。エンヤラ、ドッコイ。エンヤラ、ドッ
コイ。」あれ？なにか きこえます。どこからか おかしなかけごえが きこえてきます。ペンギンた
んけんたいは、どこにでもあらわれて、なんでもかかってにたんけんするみたいです。なにをたんけんし
ているのか、しりたくなったら、いちばんうしろから、ついていってみては？

さいご
最後は、「モンスターホテルでプレーボール」です。やきゅうぼう
野球帽をかぶり、ユニホームを着たためきのた
しちさん。やきゅう
野球が出来なくなってしょんぼり。するとドラキュラ男爵が“いい考えがある！”。そし
て集まったメンバーはドラキュラ・ゾンビ・あくまにとうめいにんげん…。モンスターホテルのお客た
ちのすこ
少し変わった野球のお話です。



「こうえんのシロ
くいしんぼうのあき」
わたなべ ひろみ 作
ポプラ社



「ペンギンたんけんたい」
斉藤 洋 作
講談社



「モンスターホテルで
プレーボール」
柏葉 幸子 作
小峰書店

「おまめちゃん」

じゅんかいがっきゅうぶんこつうしん だい 50 号 2010年11月
巡回学級文庫通信 第50号 2010年11月

ほんよむのがたのしくなってきたひとへ
本を読むのが楽しくなってきた人へ

しょうがっこうねんせいからねんせいになると、ほんよむのがたのしくなってきた、どんどん

よめるようになってきます。今月は、そんな、ほんよむのがたのしくなってきた人たちにお

すすめの、とみやすようこほんしょうかい
すすめの、富安陽子の本を紹介しします。

はじめは、「ちいさなやまかみひめ」です。みなさんは、どこのやまやまかみ山にも山神さまがすんでいて、山をおさめていることを、していますか？山神さまは、山の木や草や虫やけものたちのすべてのいのちをみまもっています。山を紅葉させるのは、やまかみだいじしごとひめ山神の大事な仕事のひとつです。この仕事を小さなスズナ姫がひとりだけでやりおせたら、山神としての独立をゆるすと、お父さんの山神さまはやくそくしてくれました。

つぎは、「ムジナたんていきよく」です。へんてこ横丁のムジナたんていきよくにまいこんでくるのは、どれもへんてこな事件ばかり。夢で見た白い木箱の怪、小さなアブがはこぶ暗号のなぞー。ちょっととぼけたムジナたんていげんきじりしげんたしょうねんめい探偵と元氣印の源太少年の迷コンビがつづるゆかいな事件簿。

最後は、「さいごりゅうまほうのたまご」です。パパの名前は信田ハジメ。ママの名前はサキ。3人の子どもたちはユイ、タクミ、モエ。この一家には誰にも知られてはならないじゅうだいひみつが…。それは、ママのしょうたいがキツネだということ。そんな信田家に小さな竜が迷い込んできて…。



「小さな山神スズナ姫」

富安 陽子 作
偕成社



「ムジナ探偵局」

富安 陽子 作
童心社



「シノダ！チビ竜と魔法の実」

富安 陽子 作
偕成社